病院ニュース

2009年1月　第16号（年4回発行）

主な内容

1面 ●安心で優れた療養環境の提供（病院長　河野陽一）
●リハビリテーション部の役割

2面 ●アートのワークショップ開設
●世界最新鋭の320列マルチスライスＣＴが稼動

3面 ●院内看護研究発表会
●今江選手がやってきた！＜小児病棟＞
＜Mini　News＞
◆外来玄関等の絵画展示公募◆クリスマス・コンサート
◆デビッドカードの取り扱い開始！◆特別室のご利用料金改定

4面 ●＜フリートーク＞小児外科学教授：吉田英生　大人の手術とは全く違う小児外科
●＜トピックス＞眠れない夜はどう過す？
●＜亥鼻むかし・昔＞❼

千葉大学医学部附属病院　〒260-8677 千葉県千葉市中央区亥鼻 1-8-1　TEL 043-222-7171（代表）　http://www.ho.chiba-u.ac.jp/

〈新年を迎えて〉

安心で優れた療養環境の提供

病院長 河野陽一

皆様、新年明けましておめでとうございます。

今年も千葉大学医学部附属病院は止まることなく、より優れた医療の提供を目指して前進してまいります。

昨年は「ひがし棟」が開院しました。引き続き今年も本院の再開発計画に従い、「みなみ棟」そして「にし棟」の全面的改修を行います。すでに昨年11月に「みなみ棟」の周産期母性科、小児外科、小児科は、改修工事のために病室は「にし棟」へ移動し、小児科、小児外科そして形成外科は仮設棟で外来診療を始めました。仮設棟の外来は狭小であり、また「にし棟」の病室も仮の移転のために療養環境は最良とは言えませんが、改修工事期間中の医療の質ならびに安全の維持には万全を期しております。患者の皆様にはご不自由をお掛けしますが、病院機能をより高いレベルに整備してまいりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

このような病院の新築、改修のみならず昨年より看護師の採用枠を大幅に増やし、各病棟の看護師を増員しました。今年も引き続き看護師を増やす予定であり、看護体制を充実させることにより患者の皆様には優れた療養環境を提供できるものと信じております。

大学病院の重要な役割のひとつとして、高度の医療の提供に加えて新たな治療法の開発があります。「ひがし棟」1階に未来開拓センターを昨年オープンし、治療の手立てが十分でない疾患に対する新たな治療法の確立に全力をあげております。すでに再生医療、移植医療、免疫医療など先端医療の分野で、今までとは異なった治療を行うことができるようになりました。

さらに大学病院には、地域医療における「最後の砦」としての役割があります。千葉県も医師不足の問題を抱えていますが、「ひがし棟」の屋上にはヘリポートを整備し、遠隔地からの搬送を受け入れられる体制としました。本院の病院機能をフルに働かせ、千葉県内のすべての地域の医療の中心として貢献してまいります。

今年も医療そして療養レベルの向上を目指し、また患者の皆様とともに歩む千葉大学医学部附属病院であり続けます。

ご支援のほどよろしくお願いいたします。

リハビリテーション部の役割

目標は、患者さんの自立と社会復帰

右手がどうしても動かないのなら左手を、両足に麻痺が残って歩行が無理なら車いすを使って―。

一通りの治療が終わった後、障害が残ってしまった患者さんの機能の回復・向上をめざしてさまざまな訓練をするのが〈リハビリテーション部〉の役割。その最終目標は、患者さんが自立して社会復帰を果たすことです。

ほとんどの診療科から訓練依頼

リハビリテーション部の作業の流れは、脳・脊髄疾患、神経疾患、運動器疾患、小児疾患、切断、呼吸・循環器疾患、廃用症候群といった千葉大学医学部附属病院の各診療科からの依頼に基づき、リハビリテーション部の担当医師が「機能障害」「活動制限」「参加制約」など障害の評価を行い、治療計画とその期間、最終目標を定めて、患者さんとそのご家族に説明をして、同意を得ます。その後、リハビリテーションの処方をし、いざ訓練へ。

この訓練の実施に際しては、必要に応じて次のような治療を施します。

●理学療法＝患者さんの基本的身体機能の改善を図り、歩行などの移動を可能にする訓練を行います。

●作業療法＝さまざまな作業を通じて、患者さんの応用的身体動作や精神機能の向上をめざします。

●言語聴覚療法＝失語症などコミュニケーション障害を持つ患者さんの評価と訓練を主に行います。

●義肢装具療法＝医師の処方に基づいて、外部の義肢装具士が採型・作製・適合を実施。

村田 淳　部長

これらの機能回復訓練の依頼は、千葉大病院のほとんどすべての診療科にわたっており、平成19年度では、一日平均１００件の訓練をしています。その主な内訳は１位が「整形外科」(30％)、２位が「脳神経外科」(13％)、３位が「神経内科」(10％)の順となっています。

リハビリテーション部では、このほか歩行分析などの運動学的評価や痙性に対する神経ブロック療法などの治療や、障害者に対する各種の相談にも応じています。

病室に出向いての訓練も

●理学療法士・天田裕子さんの話＝40分～1時間にわたり、患者さんの状態に合わせて訓練をしています。呼吸器や点滴をつけた方も多いため、病室に出向くこともありますが、何より訓練によって徐々によくなっていく姿を見ると、仕事としてのヤリガイを実感します。

何が最適か―を見つけるのが大変

●作業療法士・吉田奈美さんの話＝病気になったりケガをした人の生活の組み立て直しをする仕事。具体的には、作業を通じて使えなくなった機能を回復することで、患者さんそれぞれの障害に合わせてどんな方法が最適なのか―を見つけるのが大変難しいところです。

一つひとつの臨床体験が大切

●言語聴覚士・長谷川啓子さんの話＝静かな部屋で対面式で行っています。この療法は、1年も2年もかかり、患者さんご本人の忍耐力が必要です。でも長い訓練の結果「家族との「コミュニケーションが取れるようになった」といわれると、本当に嬉しくなりますね。学校で学ぶこととは別に、一つひとつの症例から学ぶ臨床体験がとても大切―と実感しています。

患者さん同士、患者さんと病院スタッフの心の通い合った関係づくりを――

アートのワークショップ開設

アートの制作を通じて、患者さん同士、また患者さんと病院スタッフの心の通い合った関係づくりを――と昨年11月下旬、千葉大学教育学部普遍教育科目（担当・加藤修教授）「アートをつくる」の受講生が中心となってワークショップが開設されました。会場となった千葉大病院ひがし棟デイラウンジでは、学生たちとともに患者さんがあれこれ工夫を凝らし、それぞれの作品づくりに熱中、「おかげさまで、院内に新しい友達ができた」など喜びの声が寄せられました。

ペンダント、ランプシェード、ステンシルの絵画を制作

このワークショップは、入院中の患者さんが同室の患者さんに対して、またいつも何くれとなく気遣いをしてくれる医師、看護師、その他の病院スタッフに対して、日頃感謝の気持ちを持っているのに、それがなかなか素直に伝えられない――そんな心境のときに「いつもありがとう」のひとことのきっかけになればとの思いから、「アートをつくる」のメンバーが企画したものです。

アート作品は、紙粘土のハート型ペンダント、使い捨てワイングラスを利用したランプシェード（中庭を照らす光の樹）、ステンシルの絵の3つ。まず制作に参加を希望する患者さんを募り、11月22日からデイラウンジでそれぞれ作業を開始しました。

ピタリ！大学と病院が連携

作品は、完成したものから順次披露され、患者同士、また医師や看護師に自作のペンダントを見せて感想を求めるなど、和やかなコミュニケーションづくりに貢献しました。ひがし棟の吹き抜けの中庭に置かれた手作りランプシェードを取り付けた自然木の木の枝オブジェには、通りがかった患者さん、病院スタッフ、お見舞いの家族や友人、知人も、その幻想的な雰囲気にしばし足を止めて見とれていました。

アート制作の過程におけるコミュニケーションづくりを重視したこの試み、大学の授業と大学病院の連携による<心おこし>は、心の通い合った病院づくりの面でも大きな役割を果たしています。

企画・運営に活躍した受講生の話

困っている患者さんに薬入れを作る人も

●徳野絢香（ペンダント担当）＝ハートの形は実にさまざま。なかには、同じ病室の患者さんが薬入れに困っていることを知って容器を作る人もいて、心の通い合いへの思いが視覚化されたことを知って、ワークショップをやってよかったです。

見舞客も制作に参加してくれて

●小西翔太（ランプシェード担当）＝東京からお見舞いに来られた人も、患者さんと一緒に作業に参加してくれたり、学生と患者さんが親しくことばを交わす場面もたくさんあって、とてもいい経験になりました。ランプシェードやその光そのものも、患者さんの心をあたためることに役立ったと思っています。

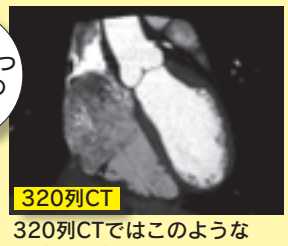
「ママ大好き」のメモも…

●河上友宏（ステンシルの絵画担当）＝帆布にさまざまな型に合わせ、スポンジでポンポンするだけの簡単な作業での絵画制作に、多くの患者さんが参加してくれました。クリスマスや新年のインテリアとして使っていただきましたが、文字も書けるようにしておいたら、お見舞いに来られた子供さんの「ママ大好き」のメモもあり、思わずジーンときてしまいました。

世界最新鋭の320列マルチスライスCTが稼動開始しました

不整脈のため、連続性がなく、診断が困難です。

不整脈をもつ患者さんの心臓画像



320列CTではこのような明瞭な画像になります。

0.5mmの薄いスライス画像が一回転で世界最多の320枚収集できる最新鋭の320列CT（Aquilion One、東芝）が昨年12月に導入され、稼動を開始しました。このCTでは一度に16cmの範囲の撮影が可能なため、心臓、脳、肝臓などの臓器全体の撮影が一瞬で可能です。

この最先端医療機器の導入により①これまで撮影が困難であった不整脈をお持ちの患者さんの冠動脈、心臓の明瞭な画像を得ることができる②造影検査で使用される造影剤量が従来の半分で済む③撮影時間もわずか2秒以内――といった利点があります。もちろん不整脈のない患者さんの冠動脈、心臓の画像も綺麗に描出することが可能です。

また世界最短の撮影時間が可能なこのCTにより、体の動きが激しく静止状態が困難な小児や救急の患者さんにも有効で、より有益な診断情報が提供可能となりました。

mini news

あなたの絵を病院に飾ってみませんか？

●外来玄関等の絵画展示公募

本院では、これまでにも外来や病棟にさまざまな絵画、写真を展示して、患者さんやご家族のアメニティの向上に努めてきました。

この度、より明るく優しい院内環境づくりのため、外来ロビー等に展示する絵画を広く一般に公募し、一定期間借用し、展示させていただくことにしました。

患者さんやご家族が明るい気持ちになれるような絵画を募集しますので、奮ってご応募ください。

■問合せ先　管理課総務監査係　Tel 043-226-2234

年の瀬のひととき音楽に酔う

●クリスマス・コンサート

本院年末の恒例行事となっている「クリスマス・コンサート」が昨年12月18日の夕方開かれました。会場となった外来ホールには開演前から事前に開催をポスターで知った患者さんやご家族の方々が多く詰めかけ、外来ホールに響きわたる美しい音色にうっとりとした表情で聴き入っていました。

この日演奏したオーケストラ「千葉大学ゐのはな音楽部」は、「医療機関でボランティア演奏ができたら」との願いから始まり、千葉大学亥鼻キャンパス（医・薬・看護学部）の学生を中心に構成されています。

サンタクロースやトナカイ、その他の動物に扮した楽団員が、クリスマスにちなんだ「そりすべり」「赤鼻のトナカイ」などの曲目を演奏すると、早いテンポの曲では観客席から手拍子が起こるなど、演奏者と観客が一体となって音楽を楽しんでいました。

デビットカードの取り扱い開始!!

●診療費自動支払機

本院では、さる平成20年11月13日より1階外来ホール③番窓口脇の診療費自動支払機で、デビットカードの取り扱いを開始しました。

デビットカードとは、通常使用している金融機関等のキャッシュカードで、診療費等のお支払いができるというものです。

通常使用している金融機関等のキャッシュカードを使用するため、特に申し込み手続きなどをする必要はありません。また、デビットカードのご利用に手数料は一切かかりません。

これにより患者さんには高額な紙幣を持ち歩く必要がなくなり、銀行窓口やATMへ行かなくてもお支払をすることが可能となりました。

なお、ご利用の金融機関によってはお取り扱いができない場合や、1日あたりの利用限度額や利用時間等の設定がされている場合がございますので、ご不明な点は各金融機関にお問い合わせください。

（医事課外来業務室収入係）

特別室のご利用料金改定

平成20年５月のひがし棟オープン以来ご利用いただいている特別室ですが、このうち特別室Ｓ（２室）、特別室Ａ（３室）の料金を平成21年１月１日から、よりご利用しやすい価格に改訂しました。

特別室使用料（一日につき）

	改訂前	改定後
特別室 S	73,500円	52,500円
特別室 A	52,500円	36,750円

特別室Ｓ、Ａは、ひがし棟10階に位置し、テレビ、冷蔵庫、オーブンレンジ、応接セット、バス、トイレ（ウォッシュレット）等が備えられた病室で、アメニティを重視した療養環境を提供しています。

診療科の医師、看護師にお気軽にお問い合せください。

手術室に入るときの心境は？ 新人看護師が〈患者体験〉

●院内看護研究発表会

秋晴れの11月29日、病院第一講堂で「平成20年度院内看護研究発表会」が開催されました。今年は新病棟オープンの年ということもあってか、演題数は９題と若干少ない印象はありましたが、１７０名の参加者があり、活発な討議が繰り広げられました。日々の看護を見つめ、患者さんにきめ細かな看護を提供できることを目的に、看護研究発表会は行われています。

発表内容を少しご紹介すると―。「内視鏡治療を受けるがん患者さんへの術前の心理的援助」という研究は、患者さんが手術を待つ間の思いを明らかにし、看護のあり方を検討したものでした。

また活動報告の「手術部における新人指導の一手法」では、手術を受けられる患者さんの気持ちを理解するため、新人看護師が患者として手術室への入室体験を行うというものでした。これにより、新人看護師が患者さんの気持ちに寄り添った看護ができるようになったと報告されました。

また「ネパール口唇口蓋裂ボランティア活動報告」は、日本では体験できないボランティア活動の様子が報告されました。ネパールでは口唇口蓋裂は『悪魔の子』と呼ばれ、就職や結婚で差別を受けることが多いこと、何日もかけて医療ボランティアセンターまで手術を受けに行かなければならないなど、大変な様子が紹介されました。

特別講演では、千葉大学大学院工学研究科の中山茂樹先生から「看護と建築設計の協働」というテーマでお話をしていただきました。

今江選手がやってきた！

●小児病棟

「ワーイ、今江選手だぁ」。昨年10月29日、千葉大病院小児病棟を千葉ロッテマリーンズの今江敏晃選手が訪問。闘病中の子供たちと親しく語り合ったり、握手をして「頑張って、早く元気になって、ロッテの試合を見に来て―」と励ましました。

この訪問は、千葉大学と千葉ロッテマリーンズの間で結ばれている連携協定に基づいて行われたもので、「自分も何かお役に立ちたい」という今江選手の申し出により実現したものです。

この日小児病棟のあるみなみ棟プレイルームに姿を見せた今江選手は、約30名の入院闘病中の子供たちの歓声と拍手で迎えられ、その一人ひとりに励ましの声をかけたり、幼児を抱っこしたり、握手をしながら、ロッテのミニタオルを手渡し、最後に全員集合の記念撮影。子供たちは、このときばかりは闘病の辛さを忘れて笑顔、笑顔の大興奮でした。子供たちから、手づくりの携帯ストラップをプレゼントされた今江選手は「みんなのことは忘れません」と答えていました。

今江選手からは、後日クリスマスツリーのプレゼントもあり、小児病棟のエレベーターホールに飾られました。

FREE 〈フリートーク〉 TALK

大人の手術とはまったく違う小児外科

千葉大学大学院医学研究院
小児外科学教授
吉田 英生

手術の一例一例を大切に――

小児外科の手術は、大人の場合とはまったく違う――といっていいほど。子供は発育途上にあるため、機能や臓器そのものが未成熟だからです。

大人の治療は、専門領域に分かれているのですが、小児外科では、消化器疾患、呼吸器疾患、生殖泌尿器疾患など多岐にわたり、鼠径ヘルニア、虫垂炎など日常的な小児外科疾患から、先天性食道閉鎖症、直腸肛門奇形など小児特有の疾患、さらに先天性横隔膜ヘルニア、胆道閉鎖症、悪性固形腫瘍といった難病に至るまで、幅広い疾病を扱っています。

したがって小児外科医は、子供の生理、疾患と病態、治療法に関する専門知識と技能を身に付けていなければなりません。私の恩師の高橋英世教授から「小児外科で扱う疾患は、症例数が少ないので、一例一例の手術を大切にせよ」と厳しくいわれてきました。今、私も学生を指導する立場になって、このことばの重みを実感しています。

子供の頃の夢は、先生か医師

子供の頃、私の生家の周囲は自然がいっぱいで、学習塾などもなく、悪ガキたちが原っぱに集まって一日中野球に興じるといった毎日を過ごしました。

将来は子供と関わる仕事に就きたいと思っていました。千葉大学医学部に合格したとき、中学校の恩師から「将来の夢は小児科医」と題した当時の文集のコピーが送られてきました。私は全く記憶になかったので驚きました。昭和53年卒業後は、高橋英世先生が主宰する〈小児外科教室〉の第一期生として入局。当時、救命困難とされていた難治性消化管疾患患児に遭遇し、基礎・臨床研究を始めました。

医者冥利に尽きること

当時治療した子供さんが元気になって、今でも会いに来てくれますが、こんなにうれしいことはありません。〈医者冥利に尽きる〉とは、このことだと思います。

千葉大学医学部は、小児外科がわが国で独立発足する以前から、旧第一外科、旧第二外科で取り組まれていて、日本の小児外科の黎明期よりその発展に尽くしてきた―という伝統を持っており、私としてはその重責に身の引き締まる思いで、基礎的修練から高次の医療技術の習得に努めてきました。

〈やさしさ〉と〈強い使命感〉を

今日、わが国は深刻な少子高齢化社会を迎え、子供たちの健全な育成はきわめて重要な社会的課題。その一方で、小児医療を志す医師の減少、厳しい医療経済など困難な時代ですが、そうした価値観の変化に惑わされることなく〈やさしさ〉と〈強い精神力・使命感〉を持った若い医師が、小児外科の道に一人でも多く入ってくれるよう、私も育成への努力を重ねる決意でいます。

〔略　歴〕
埼玉県出身。妻と子供２人の４人家族。趣味は読書と音楽。コンサートにもよく足を運びます。

トピックス

眠れない夜はどう過ごす?

人は、人生の約3分の1を眠って過ごしており、睡眠は日常生活に大きく影響します。不眠は寝つきが悪い(入眠障害)、何度も目が覚める(中途覚醒)、眠りが浅い(熟眠障害)、早く目が覚めてしまう(早朝覚醒)という4つに分類できますが、いずれの不眠もさまざまな身体疾患や精神疾患で不眠が出現します。

その一方で、ちょっとした心配ごとでなかなか寝つけず、そのうちに次々と別の心配ごとが出てきてしまい、さらに眠れなくなってしまうことがあります。このような時には、1,000匹、2,000匹の羊が登場しても寝つけず、気付くとまた心配をしているということになります。

私は、ホットミルクを飲んで布団に入り、呼吸と合わせて5つ数えるというのを10セット行う。眠れなければさらに10セット――という方法をよくお奨めします。抗不安薬や睡眠導入剤は、うまく利用すれば安全で便利なお薬です。どうしても辛い時には、主治医の先生と相談してみてください。

(精神神経科長　伊豫雅臣)

あとがき

昨年末から世を覆った不景気で「とても正月気分になれない」という人も多かったのではないでしょうか。景気の波を直接浴びるということはありませんが、千葉大学附属病院でも、常に経営改善を目指した努力が続けられています。

特に大型の工事を控えたこの年度末は、経費削減が至上命題となっています。日ごろ、決して無駄な出費はしていないつもりでも、丹念に洗い出してみるとまだまだ改善の余地があるのには驚かされます。

おそらく私たちの家計でも、また借金が30兆円を超えるという我が国の予算でも、工夫の余地があるのかもしれません。ただ、大学病院では、新規医療の開発を含め、常に医療の質の向上に努めなくてはいけないのは当然のことです。

新年を迎え、病気と向かい合い、地道な努力を重ねている患者さんや医療関係者、そのすべての人々にとって穏やかで幸せな１年になることを願ってやみません。

(脳神経外科講師　岩立康男)

玄鼻 むかし・昔 7

牛頭(ごず)天王が祀られた本町の八坂神社

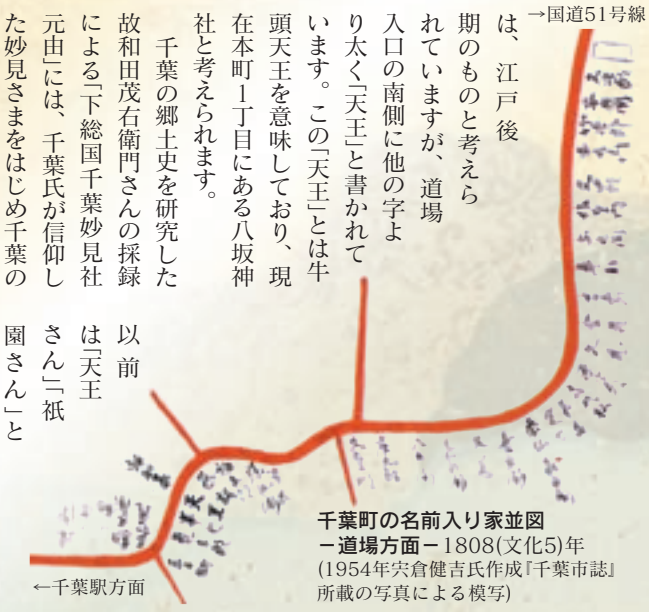
七天王塚に祀られている牛頭天王は、明治時代以後、須佐之男命として八坂神社に祀られるようになりました。京都市東山区祇園町にある八坂神社が、その地名から「祇園の社」とも呼ばれ有名です。

現在、千葉市中央区本町1丁目にある八坂神社は、明治初期の「千葉町図」の広小路から道場に至る通り沿いに見つけることができます。

この神社は、明治時代以前どのようになっていたのでしょうか?江戸時代の千葉の絵図に『千葉市図示』(上巻)に掲載されている「千葉町屋並図」があります。これは、江戸後期のものと考えられていますが、道場入口の南側に他の字より太く「天王」と書かれています。この「天王」とは牛頭天王を意味しており、現在本町1丁目にある八坂神社と考えられます。

千葉の郷土史を研究した故和田茂右衛門さんの採録による「下総国千葉妙見社元由」には、千葉氏が信仰した妙見さまをはじめ千葉の守護神が書かれており、そこに祇園社が見えます。現在の八坂神社は、明治時代以前は「天王さん」「祇園さん」と呼ばれ、牛頭天王が祀られていたのです。

(妙見信仰研究家・宮原さつき)



千葉町の名前入り家並図
―道場方面―1808(文化5)年
(1954年宍倉健吉氏作成『千葉市誌』所載の写真による模写)